

p10 下から8行目

分岐して左右の内股を上行した督脈は、

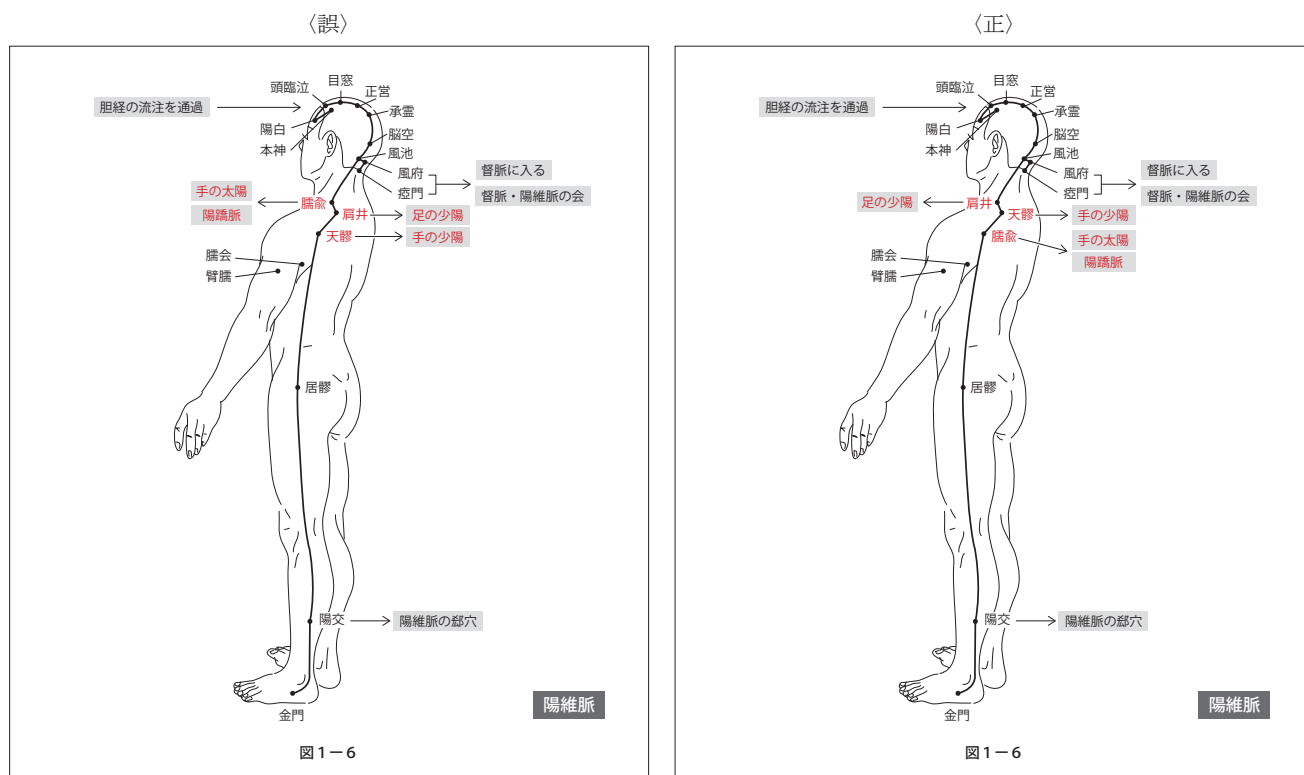
→ 分岐した督脈は、内股を上行してきた左右の腎経と合流し、

p25 15行目

胸部で深く先行する

→ 胸部で深く潜行する

p41 図1-6



p48 15～16行目

陽維脈は肩井においてはじめて足の陽明経と交會します。ここでようやく足の三陽経を維絡することができたわけです。

→ 『奇経八脈考』では、陽維脈が足の三陽経を維絡するとしていたために、肩井と足の陽明経が交會するとしていますが、残念ながら肩井は足の陽明経とは交會していません。

p50 9行目

濡会

→ 臑会

p68 14～15行目

「陽脈の海」である督脈の腦戸・瘡門に終わります。陽維脈の終点である腦戸・瘡門と、

→ 「陽脈の海」である督脈の風府・瘡門に終わります。陽維脈の終点である風府・瘡門と、

p71 11～12行目

衝脈とは盲兪において邂逅し、

→ 衝脈とは盲兪の深層部において邂逅し、

p116 5～7行目

子刻は心、丑刻は小腸、寅刻は膀胱、卯刻は腎、辰刻は心包、巳刻は三焦、午刻は胆、未刻は肝、申刻は肺、酉刻は大腸、戌刻は胃、亥刻は脾

→ 子刻は胆、丑刻は肝、寅刻は肺、卯刻は大腸、辰刻は胃、巳刻は脾、午刻は心、未刻は小腸、申刻は膀胱、酉刻は腎、戌刻は心包、亥刻は三焦

p126 10～11行目

これらの部位上の臨床上でよく遭遇する

→ これらの部位の病態として臨床上よく遭遇する

p158 10～11行目

「転移」させる場合も多いです。

→ 「転移」させる場合もよくあります。

p175 10～11行目

盲兪は帯脈と接点が多いと考えられるため、

→ 盲兪は帯脈と深層部で接続すると考えられるため、

p181 22～23行目

任脈か陰維脈の単一経脈の

→ 任脈か衝脈そして陰維脈の単一経脈の

p184 2行目

選択すると効果が高いです。

→ 選択すると高い効果が期待できます。

p202 21行目

三焦

→ 三焦

p218 2～4行目

一般に月経前緊張症・頻発月経・稀発月経・月経周期の乱れ・月経痛などが鍼灸治療院を訪れる患者の訴えに多いようです。

→ 患者の訴えは一般に月経前緊張症・頻発月経・稀発月経・月経周期の乱れ・月経痛などです。

p218 6行目

これらの疾患を鍼灸で治療することはリスクが高いです。

→ これらの疾患を鍼灸だけで治療することはリスクが高いといえます。

p268 13～14行目

頻回の懐妊は考えにくい**です**。

→ 頻回の懐妊は考えにくい**といえます**。

p270 下から4行目

現在の状況に**繋がった**

→ 現在の状況を**導いた**

p279 3行目

この部分で発熱する可能性が高い**です**。

→ この部分で発熱する可能性が高い**のです**。

p302 下から13行目

任脈・陰躄脈経筋に属する**然谷・照海・交信**を用います。

→ 任脈・陰躄脈経筋に属する**照海・交信**を用います。